第6期 第9回与謝野町子ども・子育て会議

会議報告書

日時	令和7年3月5日（水）午後7時30分から午後9時45分まで
会場	元気館2階 視聴覚室
出席者	別添名簿のとおり（出席：11名 欠席：7名）
配布資料	◇会議資料：次第、資料1…第3期子ども・子育て支援事業計画（案）、資料2…（仮称）野田川地域認定こども園整備ロードマップ、資料3…学童保育料改定の検討について
会議要点	◇議事 ➤ 第3期子ども・子育て支援事業計画策定（案）について ➤ 野田川地域のこども園、保育所について ➤ 野田川地域認定こども園に係る進捗状況 ➤ 学童保育所の状況について ➤ その他
議事要旨	下記のとおり

1. 開会

2. 会長挨拶

こども園に関連する会議である検討委員会が立ち上がり、実際に稼働し始めました。

議会の中でも各種の予算が進み出しており、私達がこの会議で練ってきたものが具体的に動き出そうとしています。

まだスタートライン手前であり、まだまだ詰めなければいけないこと、園周辺のことなども多々ございます。

有意義に過ごしたいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

3. 議題

1) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定（案）について

（事務局）

前回の会議から修正内容を資料に基づき説明

説明後質疑応答

（意見）

3 ページ、括弧1 ども家庭センターの設置とサポートプランの作成で、概要・事業等の文中において、各母子保健の設立の意義や機能は維持した上でなのか。

機能は、機能をどちらが正しいのはどれか。

5 ページ、産後ケア事業の概要というのがあるが、産後ケア事業すごくありがたいと思う。私が子育てをしていた2年間は、3時間しか寝なかったとか色々ありケアをもらう、相談に乗ってもらう期間、範囲、生まれてすぐは自分の中で不安があったりするが、食事を食べてくれない、眠ってくれないなど、すごくお母さん自身私もでしたけど、ストレスが溜まり気持ち的にしんどくなり仕事もしていたので、結局は同僚の先輩に夜中に電話をして相談に乗ってもらった期間がありました。

利用期間は原則7日以内とあるが、この7日以内とは、どういう期間内なのか。

47 ページ、生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握助言等を行いますとあり、その確保対策が実施体制を確保し、全戸訪問を目指しますとあるが、全戸訪問しますではないのか。

全戸訪問をお願いしたいと思います。

64 ページ、I LOVE赤ちゃんプロジェクトとありますが、ステッカー、キーホルダーを利用したいと思うんですが、ステッカーキーホルダーは、誰でもどこでもいつでも手に入れることができるのか、またたくさん手に入れることができれば、婦人会の方でも渡せればすごくいいんじゃないかなと思う。

71 ページ、安全安心のまちづくりの整備ですが、安心快適な歩行空間の整備いうところで、与謝野町通学路交通プログラムに沿ってPDCA計画実行評価改善ですね。

与謝野町通学路安全推進会議の確認を行います、孫で中学生が2人いますが、サイクリングロードには電柱が無く街灯が一つもない。岩滝と野田川にはあります。

子どもたちに聞くと、朝はサイクリングロードを通るが、帰りは暗くて怖い、全く街頭が無い国道を通過して帰っている。

秋以降暗くて怖いので、クラブ活動が終わると車で迎えに行くこともある。

加悦地域だけが街灯をつけるのが遅い理由と今後の予定がないのか。

その割にはPDCAと書いてあるのに、計画も改善も無いのか。

(回答)

3 ページの表の中の括弧1 ども家庭センターの設置とサポートプランの作成等について。

こちらの文章は国が示されている文書をそのまま表記しており、設立の意義や機能は維持する一方で、組織を見直すことでおそらくその前、前段と後段で維持するのを見直すを並べるのため、おそらく「を」を2回並べるのではなくこの形の文章にしたのではないかと推測します。

5 ページ、先ほど期間がいつからいつまでだということでしたが、産後ケアの事業実施要綱がございまして、出産後1年までが対象となっております。

1年の間で、事業を有効利用いただけるのが7日以内とご理解いただけたらと思います。

47 ページ、こちらにつきまして町としては、全戸訪問を目指したいのですが、住民の方々のご都合もあるため、必ず全戸とはならない場合がありますが、町としては全戸訪問を目指したいという趣旨でございます。

64 ページ、赤ちゃんの取り組みにつきましては京都府で行っている事業であり、ス

テッカーはありますが、キーホルダーについて在庫の把握をしてないんですが、ステッカーについては、チラシにステッカーが貼ったものがまだ沢山あるようで希望があれば100枚単位でお分けすることができます。希望がありましたらお渡しすることが可能で、町にも200枚程度は持っておりますので持って帰っていただくことも可能でございます。

71ページ、サイクリングロードは府道で、設置は京都府がされてますので、与謝野町は要望する立場で、何年も前から建設課は要望していますと、回答をさせていただいており、今どこまで整備ができていかなど実情がこの場でお答え出来ませんが岩滝地域、与謝野駅から順番に加悦方面に上がってくる整備をされているように聞いております。

以前照明の光が田んぼに植わっている稲に悪い影響を与えるのではないかと、などのお話もあり、その後結論は知らないのですが、順番にというお話は聞いております。

ただ、順番がどこまでかという部分は分かりません。

順次進んでいまして、算所辺りの施工中を見かけましたが、今後の期間は存じ上げませんが少しずつ進んでいるところです。

(意見)

すごい事業計画の100本ぐらゐの変更事業が網羅されている。

素晴らしい事業だなんて思いますし予算規模も相当なんだと予測はつきます。

一つ目は、この近隣市町と比較したときに、この計画がどのくらい素晴らしいこと、どこがちょっと劣るとか教えていただけたらと思いますが。

(回答)

どこが良くてどこが悪い、大変難しいご質問かなと思いますが、今回第2期から第3期の計画に移行するにあたり、115事業を見直し、90事業まで見直しをかけさせていただいております。

利用者が多い事業、また利用実績が高い事業、あとニーズが高かったり、継続していく必要性の順位は当然高いものを認識しておりますが、事業実績によっては、例えば産後リフレッシュ事業とか、ファミサポ事業等がありますが、第2期の計画から開始できたこと、これについてはこの計画があって実施できたのではないかと考えています。

ただニーズが高いから継続するのではなく、利用者が少なくても、実施していかなければならない事業というものもあり、こちらにつきましては残していくという考えを取りつつ、利用者の負担の徴収であったり見直し、また事業の拡充縮小等を含め、その必要性がある事業について、第3期の計画で見直していかなければならないのかと、今挙げさせていただいた点が良い点という部分ではないかなと、今考えてます。

悪いという言い方が適切なのかなと思いますが、こちらにつきましても、前回の第2期のニーズ調査の調査数字をそのまま使用したことにより、ニーズと実際の使用、利用の数との乖離が目立ちました。

今回はそのニーズ調査をもとに、実際の利用者等も踏まえたところで、量の確保であったり、見直しを実施させていただきました。

これについては前回は悪かったのかとなりますが、数字の取り方の違いというところで今回は少しシビアに現実にあった数字を基に作成をさせていただいていると思っております。

また、第2期の計画でありました野田川こども園、こちらが期間中に建設ができな

ったことは残念であったわけですが、こちらにつきましては、第3期で完了見込みが立ったと私も思っておりますので、早急な建設整備を進めていきたいと思っております。

(意見)

さっきスクラップアンドビルドはもう利用者が少ないものをいつまでも引っ張るわけじゃなくて、新しいものを取り入れながら、利用が少ないものは縮小していく、廃止するということだと思えるんですね。

それが町民のニーズにかなったものであるとするならばそれはそれで良い。

前期のときにもちょっと違って私は出していただいたんですけど、この会議でこういう素晴らしい計画をいくら形づくりしても、やはり結局この事業というのはそもそも、就労なんですよ、その就労支援をするのが最初のところだと思いますので、この計画でいう2ページ目のところ、総合計画があって地域の福祉計画があって、こちらでいう子ども・子育て支援事業計画があってというところで、この関連性で見たときに、就労ということでの部分がもう少しプッシュできないものなのかなと思うんです。

昨日一昨日でしたか、テレビでちょっと恐ろしいニュースを見ましたが、2070年には、昨年72万人と言われてました出生者数が8分の1に減って出生者が全国で8万人とか恐ろしい数字の話が出てたんですよ、この町の存続というところも確かにももちろんありなんですけどやはりこういう素晴らしい事業を作っている以上、町の外へなるべく出られないようにするためにも、他のところのリンクをしっかりとかなないと、町が無くなってしまわないか、というふうな気がしましたので今の質問させていただきました。

(回答)

先ほど言われました他のリンクという部分と今後の事業という部分で少しこれが良い点になるのかなという部分が抜けてました、一つお話させていただきたいのが、今回第2期では保育所の政策につきましては、待機児童の解消という部分でございました今回こども園の整備も含め、待機児童の解消という部分ではクリアしていけるという見込みも立ちましたので、今後につきましては、質の向上に向けた事業計画をしております。

当初の会議だったと思うのですが第3期の計画は令和11年度まで実施させていただくわけですが、令和12年以降の計画につきましては、こども計画いわゆる18歳から39歳という若者世代の計画も踏まえた、こども計画というものに変えていかなければいけない。

現在、こども計画は国の方で努力義務ということで、まだ当町にはこども計画はございませんが、今後随時調整しつつ、令和12年には、こども計画という名前の子育て支援計画であったり若者計画というものを、統合したこども計画を策定しなくてはならないため、来期以降につきましては、今の計画の見直しをしつつ、計画全般をどうしていくなど、今後皆様にお世話になりたいなと思っております。

(意見)

第3期支援計画は来年度というか、令和7年度4月から実施と受けとめたらよろしいですか。

(回答)

4月1日から第3期の計画に基づいて行政が実施をしていく。

事業を担っているということでご了解いただけたらなと思います。

(意見)

すごくいい計画ができたなと思っています。

これをどれだけ周知していただき利用していただいて、中身のあるものにしていくということが本当に大事なことだと思っています。

特に本当に切れ目のない支援をしていく。

そして、この町で生まれた子どもたちが本当に幸せな人生が送れるように育ててほしいと思っていますので、周知徹底するなどそこに行った人にはそれがわかるけれど、行かなければわからないとかで、この概要版を見てもこども園のところは細かく事業が書いてあるが、概要版じゃない方は小学校、中学校のあたりもどういう支援がありますっていうことが書かれていると思うんです。

これを見てなかなか伝わりにくいなっていうのを思っています。

小学校、中学校になると、こういう支援があります安心して子育てしてくださいっていう、一覧になったものがそんなに詳しくは書かれてないんですけど、うちの子たちはこういう支援をしてもらえるんだな、ここに相談に行けばいいんだとか、悩むお母さんの話もありましたけれども1年目はこういうことできるんだな、でもそれをどうしたらいいの、またそこで探さなあかんっていうのではなく、何か今の若い方たちに受けるような感じで、パッと見てわかるような、そしてそれが町民の方にもわかるような、この概要版を見てもホームページに上げられても、本来熟読するっていうことはないと思うので、与謝野町の子どもたちはこんなふうな支援をしてもらってるんですよ。

皆さんの税金のおかげですよっていうことがわかるような、手立てをしていただけたら嬉しいなと思いました。

(回答)

一覧につきましては、就学前までの一覧につきまして保健師で作成をしており、広く住民の皆さんへは、なかなかしづらいです。

昨年4月に、こども家庭センターができたとき、子育て応援課で取り組むこども家庭センターはこんな機関になります、ということを広報よさのでお知らせさせていただきました。

広報よさので広報をさせていただくのが住民の皆様には、一番わかりやすいと思いますが、保健師の方で一番気にしていることは、漏れがないように母子手帳、母子健康手帳を取りに来られた方については、その場で面談も行いながらサービスの一覧をお配りしています。

また、母子健康手帳を持った状態で与謝野町に転入された方につきましても、情報を得ることができるようサービス一覧について伝えるようにさせていただいています。

令和6年4月にこども家庭センターができましたということを申し上げましたが、与謝野町につきましては、以前から子育て応援課の中で母子保健分野と、児童福祉分野が一緒になり課の中で事務をしておりましたので、保健師や事務員が顔の見える関係で一つの案件について情報共有をすることが可能でした。

他の市町につきましては、別々の課、別々の所管で実施されていたことから、こども家庭センターを作りましようとなっています。

与謝野町は以前から体制ができていたので、効率の良い関係にはなっていたと思っており、令和6年4月にこども家庭センターを作りなさいと、国から言われまして慌てて新しい体制作りをしたということではなく、今ある体制をさらに連携を深めていくよう

に、この1年間をかけてやってきたところでございます。

まだ完全な形だとは思っておりませんが、例えばハロープロジェクト事業などがこの一覧の中にも載っておりますが、こちらにつきましては、他には例を見ない事業ではないかな、たくさんある事業のうちの一つなんです、こちらにつきましてはそういう事業ではないかと思っております。

こういった事業を広げていきたいという保健師の熱い思いもあり、子育て応援課全体で取り組んでいかなければならないことであり、経済情勢があまりよろしくないこの町ですが、1人がカバーできる部分につきましては、情熱でもってやっていける部分につきましては、しっかりと取り組んでいっているつもりでございます。

(意見)

すごい事業というか、いろいろ見させてもらいました。

僕は子ども4人いて、妻にも今日会議行って来ると言いましたが、実際何の会議してのって言われた時になんか子育てをやつみたい感覚だったんですが、会長のお話聞いて何ていうんですか本当に例えば今産後ケアとか、産後ママのリフレッシュケアとか、色々な所で事業されてるじゃないですか、有料だったり、山の家とかやってると思うんですけど、我が家で一番下の子は去年の4月に生まれ、その間にその期間に行くんですよって時に何て言うのか、例えば、保育所に3人連れて行って、その後授乳して、後は自分も食事、洗濯、お昼になったらまた授乳して、自分も食事してまた寝かしつけて気づいたら、4時ぐらいに保育所に迎えに行かなあかんから3時ぐらいから夕ご飯の準備して、4時には向かへに行って子ども達帰ってきてワチャワチャして、風呂入ってって感じになっている。

実際どこに妻の時間があるのかなっていうのはすごくあり、実際延長保育もあるから延長保育で預けてしまえば、時間は作れるかもしれないが、その延長保育にも実際お金がかかったりして、現状は延長保育を使うっていうのは出来ないかなと思っている。

確かにすごい事業がいっぱいあり心のケア事業もあるんですけど、そこに行くのにも結局時間とか時間を作るのにお金をかけて産休に入ってるからお給料も少ない。

払えないというのが実際なのかなと思ってますし、確かにすごく色々な事業ありますが、手取り早くとか本当に一個人意見ですけど、妻を支えるためには延長保育料無料とか、そういった金銭的な支援の部分で可能であれば今後お願いしたい。

例えば延長保育料制度とかがあれば、少し時間が作りやすいのかな思いました。

(回答)

令和6年度だけの取り組みになってしまったんですが、国で子ども子育て支援交付金を赤ちゃんが生まれる前に5万円を生まれた後に5万円を給付する制度がありました。

町は令和6年度まで、出産準備応援金、妊娠24週以降お1人お腹の赤ちゃん1人当たり10万円の給付がございましたので、ここを京都府がプラットフォーム事業として立ち上げました。

この事業に乗り、出産前に5万円出産後に5万円それぞれのものを京都府が作ったカタログの中から商品を選んでいただく方法を京都府の制度に乗りました。

そこに参加される市町が少なく、実は6年度いっばいでこの事業が無くなってしまうんですが、この事業に取り組もうとなったとき、与謝野町独自で何か考えることができないかということで、品物を選ぶカタログの中に与謝野町独自のクーポンを載せていただくことを保健師の方が思いつき、実際にクーポンを作って載せました。

1枚500円で6枚綴りで3000円分のクーポンで、5万円まで何冊でも頼んでいただけたんですけども、こちらのクーポンを使ってかや山の家で実施しており産後リフレッシュへの参加自己負担が1000円にクーポン2枚使っていただき参加していただく。

またその時、上のお子さんがおられる場合は、一時保育が必要になってくるということで、一時保育にも使っていただくことができるクーポンを作りましたが、実はこの事業自体が6年度いっぱい無くなって、広く周知させていただくことができないまま終わってしまいました。

実際の利用が数件にとどまってしまったと思っており、とても良い思いつき、良い取り組みだったんですが、精度が良くなる前に終わってしまった。

非常に残念な結果に終わってしまったようなことです。

意見をいただいたということを持ち帰り、何か考えることができないか提案してみたいと思います。

(意見)

クーポン券のことも知らなかった、親として知らないっていうのがいっぱいあって僕はアンテナを立ててないのか、情報が全然入ってきてないのか分からないんですけど例えば保育所で他の保護者全員集めたりして、こんな事業がありますこんな内容がありますなど一緒にやる、いってみるとい話になるのかなと思う。

これからの事業をどう伝えていくのかまだわかんないんですけど、そういうのもありなのかなって思います。

(意見)

担当課の宿題でお願いします。

(意見)

内容と少しリンクはしないかもしれないんですが、私も医療の現場で働いていて、野田川、岩滝に住んでおられる患者さんとお話することもあって、町の財政が危ないっていう話が出たときから色々な話をされる患者さんがすごく多い。

皆さん不安に思っておられる方、本当に応援していこういった政策をいろいろ挙げていただいて、子どもたちのために色々考えていただいているのはすごいわかりますが、ただ、今の子どもたちには良いんですがそれが10年後20年後与謝野町に残って大人になっていく子どもたちにとって、負の財産とならないように、例えば給食センターであったりとか、こども園というところで、本当にお金をどこまでかけるかというのをしっかり考えてほしいというのが皆さんの意見としてもよく聞くので、そういったところを考えていただけたらなと思います。

2) 野田川地域のこども園、保育所について

(事務局)

一点目、町立こども園、保育所について

令和6年度末をもって山田保育所、石川保育所を閉所(3月22日土曜日には両園の閉所式)

令和7年度より現山田保育所を活用する形で幼保連携型認定こども園、野田川第2こども園とし開園(4月4日の金曜日には、野田川第2こども園の開園式)

また保育所からこども園への用途の変更につきましては、京都府から1月31日付で

申請が受理されており、こども園への移行が完了することから、連合保護者会より要望を受けていました、土曜日の1日保育を令和7年度から実施する方向で、現在最終調整を行っています。

二点目、認可外保育所と小規模保育事業を運営されているこどもの森保育園についてこどもの森保育園は認可外保育所開園当初から認可保育園化を目指して、これまで保育事業の運営をされてこられました。

令和4年3月からは場所を三河内に移転し認可外保育所を併設する形で小規模保育事業を展開されていた。

園児数は、年々減少傾向にはありますが、町内町外を問わず子どもの森保育園を希望される方がおられ、未就園児を対象とした子育て支援事業の充実にも尽力をされておられます。

与謝野町子ども・子育て支援事業計画においても、就学前の教育保育の必要量の提供基盤として位置づける施設となっております。

認可保育所となるための条件としまして、保育所の設置認可、また社会福祉法人化の取得が必要となり、設置認可につきましては、京都府から昨年10月31日付けで内示があり、社会福祉法人化については、1月30日に審査会が行われ滞りなく審議が終了したという報告を受けております。

社会福祉法人の認可通知は今のところ町でも受けていない状況ではありますが、3月中、下旬には結果が届くものと考えており、こどもの森保育園が認可保育所となったら、入園調整、支給認定、保育料の徴収等の業務を町が行うこととなりますのでいつ認可されても対応ができるよう、準備を整えているところです。

社会福祉法人の認可が取得できれば、現在の認可外保育所、小規模保育事業については、認可保育所へ移行のため廃止となり、令和7年度からは民間の認可保育所が設置されるということになりますので、利用者への新たな選択肢が増えることとなります。

3) 野田川地域認定こども園に係る進捗状況について

(事務局)

野田川地域認定こども園整備事業の進捗について報告

2月13日に設計業務に係る入札を行い2つの業務について受託業者が決定。

野田川地域認定こども園新築工事設計業務委託につきまして、キタイ設計株式会社京都支社にお世話になることになりました。

野田川地域認定こども園敷地造成設計業務委託につきまして、株式会社ユーズ京丹後営業所にお世話になることになりました。

各業務内容についてはロードマップで説明

令和7年度中には造成工事および石川保育所の解体工事に着手していきたいと考えております。

施設整備検討委員会につきましては、第1回の委員会を先月2月12日に開催いたしました。

委員会は子育て支援機関関係者、石川区役員などの有識者、こども園保育所の園長、こども園保育所の保護者代表などにより構成しております。

園の整備に係る基本的な方針、配置計画、平面計画などについて設計業者とともに協

議検討し、建築設計の中の基本設計と言われる部分について今後作り上げていきます。

今後設計業者が提案する平面配置プランについて協議検討を繰り返し、委員会を開催して、7月には基本設計を完了させたいと考えております。

4) 学童保育所の状況について

(事務局)

学童保育料改定の検討について皆様方からご意見をいただきたいという趣旨です。

学童保育につきましては、小学生を対象に、主に共働き世帯の子どもをお預かりをするというサービスです。

学童保育料改定の検討について、一番の改定検討の背景ですが、三つ書いており、一つ目が支援員の確保と、待遇改善ということで、学童保育につきましては、支援員の不足が課題になっております。

人材確保のために、令和6年度については、町外も含めて広く募集しました。

運営コストの増加ですが、利用者数の増加に伴い運営費が増大しております。

施設の維持管理安全対策等の強化について、三河内学童保育所と石川学童保育所については、老朽化、トイレ等の環境改善から令和7年度中の新設を目指しています。

他の学童保育所につきましては、設備の老朽化対応の更新等は随時必要になってくると思っております。

人のバランスの見直しについては、財政状況も厳しく、限られた財源で公費負担と受益者負担のバランスを検討しており、学童保育の質の向上と維持のため必要な改定を検討していきたいと考えている。

本日の会議で初めて説明を行い、意見を伺うこととなります。

本日の会議を踏まえ、6月頃になると各会議で説明、意見を伺い最終的に10月の教育委員会会議において、規則改正の議決を経て改正と思っている。

それを踏まえ、次年度の利用希望者の募集開始までに改正内容が反映できればなと考えている。

2月18日現在、令和7年度の利用希望者受付状況を示しています。

通常期と長期休業期の状況を示しており、通常期については、石川学童で10人の待機が出る状態となっており、中長期休業日については、岩屋、三河内、石川において、待機児童が出る状況となっている。

対応については、石川学童につきましては現在も行ってる、石川臨時見守り室を石川地区公民館に設置し対応したいと考えています。

長期休業日については、加悦学童保育所と岩滝学童保育所の定員を増員し、対応したいと考えています。

学童保育利用希望者数の令和6年度から令和12年度までの推計の予測を書いております。希望者数については令和9年度から減少傾向になるという予測になっています。

学童保育の事業収支シミュレーションを作成し、学童保育料3000円の場合と、学童保育料4000円の場合を比較するが、どちらもマイナスの状況になり歳出が歳入より大きい状況になっています。

仮に保育料を4000円にした場合では、現在と比べて245万円収入が増えます。

与謝野町も含め近隣7市町の運営内容を比較しています。

与謝野町のみ早朝と夜間の延長保育時間を設け、ひと月当たり500円を延長保育料と

徴収しています。

ひと月 3000 円が一番安い利用料になっており、その他市町は 4000 円、5000 円など自治体によって様々な状況になっています。

また 2 人目以降は半額、3 人目は無料にされている自治体もあります。

京丹後市については、土曜日を利用される方は、ひと月 1200 円、峰山学童では日曜、祝日を利用される方は 1 回 300 円の利用料を徴収されています。

次におやつ代ですが、与謝野町と伊根町は 1 回 60 円、その他の自治体についてはひと月 1000 円～2000 円、福知山市は 1 回 100 円でおやつ代を徴収されています。

最後に障害保険について、与謝野町は運営会社に加入いただいております、その他の自治体については、年 800 円程度の金額となっており、保護者が加入支払いしているか市が加入負担されている等様々です。

その他に各市町それぞれ減免制度がある状況です。

(意見)

利用料の 3000 円はいつからか。

(回答)

時期は分かりませんが合併後、平成 20 年最初の頃に今の 3000 円になったと聞く。

(意見)

研修に行かれた方が、学童の目的は何でしょうとかと尋ねられた。

児童福祉か就労支援かどちらかの質問があり、答えは児童福祉ですとのことでした。どちらが正しいのか。

(回答)

学童保育放課後児童健全育成事業で児童福祉法に基づき事業をしております。

事業名にもありますように放課後を使って児童の健全育成をする趣旨ですが、家庭からの資料を見ると就労支援もあります。

お預かりする以上は、こども達へ健全な育成をするなどどちらの目的もあると考えます。

共働き世帯の就労の支援が、どちらかというとき重きに置かれて今の法律のたてつけになっております。どちらも大事だと思っております。

(意見)

減免について 2 人目は考えてないのか。

(回答)

一度も改定をしてないという状況です、当時から町の学童保育料としては 2 人目以降を減免する等の制度はありませんでした。

今どうすべきかということについてご意見をいただきたい。

(意見)

学童自体の見え方が就労支援の側面が強くなっており、賃金も上がっており利用料負担とのバランスを求めなければ、良い制度であっても行き詰まっていくことになり、いろいろと検討しなくてはいけないのではないかと。

(回答)

事業には、国と府から補助金をいただいております。

最低賃金が上がり、消費税も上がっており、国と府がさらに応援して下さるよう引き続きお願いしたいと思っております。

財源という部分で他の市町と比べても寂しいところがあるのが現実です。
今後も 3000 円で実施していくことは、無理があるだろうということです。

(意見)

利用時間の検討についてはどうか。

就労支援が主であれば子どもの健全育成もちろんですが、親にすれば1日1時間でも仕事に余裕があれば、その1000円、500円上がるのは仕方がないかなと思われる方もあるかもしれない、また6時までで良いし今までの金額で良いと思われる方もあるかも知れませんが、一応両方を検討されてはどうか。

それには保護者の意向や考え方も参考にされてはと思う。

6時はちょっと早いんじゃないかという思いがあり、自分が仕事をしていれば、6時半であれば良いと思いました。

(回答)

利用時間についてのアンケート自体はまだやっていない状況です。

宮津市だったら最大で7時まで預かります、京丹後市で6時半、福知山市は7時であり6時は中では一番短い時間です。

どこまでこの利用者ニーズがあるかということで、アンケートを取り料金だけではなく、利用時間も合わせて改定すべきとなると合わせて実施すればいいのかと今のところ思っています。

(回答)

今後の進め方の説明の中で、次回6月としておりましたが、議会、教育委員会議などの会議後となるため次回子育て会議でお話できるのは7月以降となります。

5) その他について

任期のお話ですが、第6期につきましては、保護者会の皆様につきましては3月末となっております。また、有識者その他の方につきましては6月の末が任期となっております。

次回の7月の会議につきましては、第7期の第1回会議という形になりますので、メンバーの改正後になると思っております。

子育て応援歌課長御礼のあいさつ

副会長閉会のあいさつ

4. 閉会